

病理

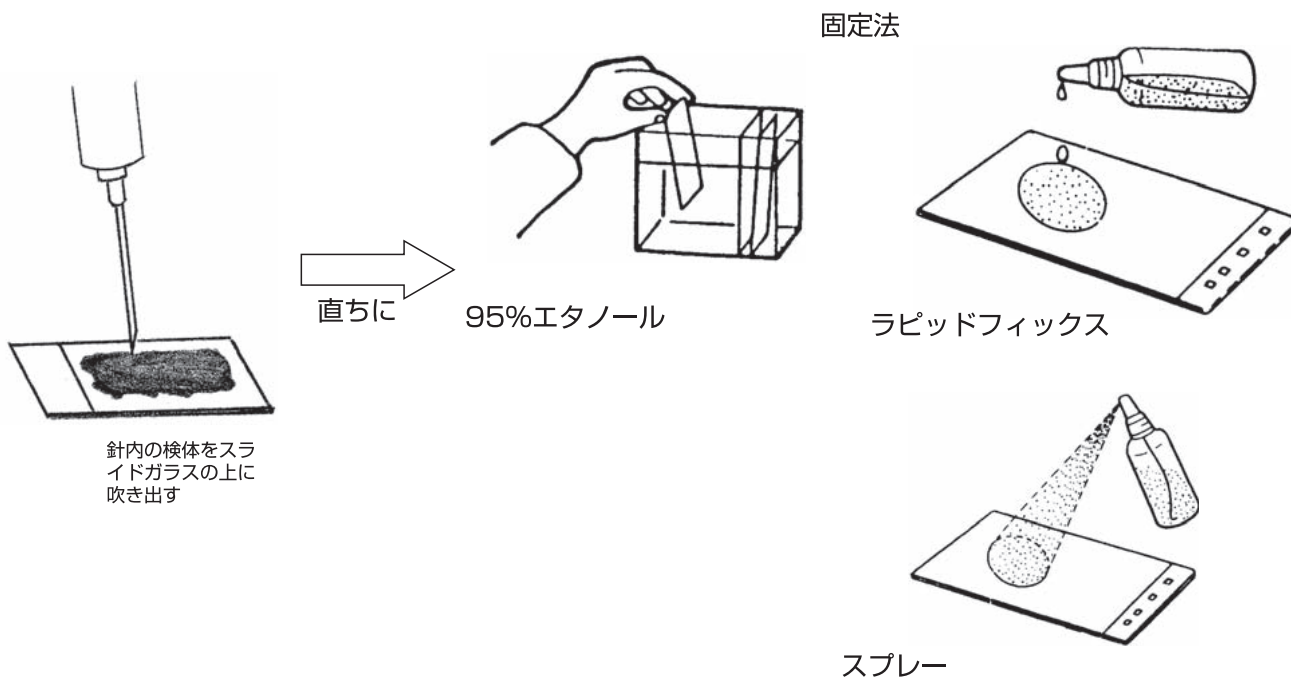
細胞診 標本作製法

乳腺、甲状腺、唾液腺、リンパ節、皮下腫瘍等からの検体

1. 充実性腫瘍の穿刺

(検体の性格上直ちに標本を作製して下さい。)

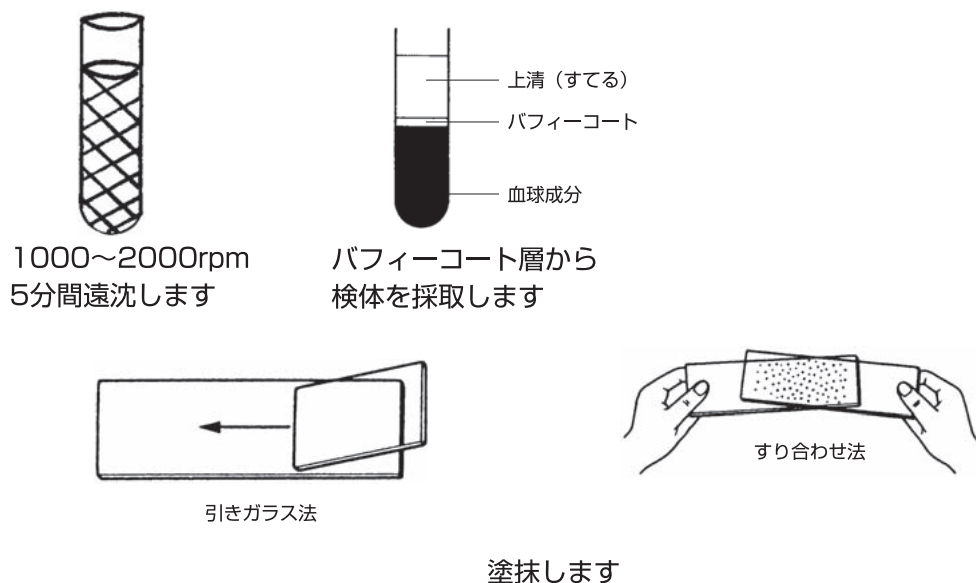
穿刺採取後、下図を参考に素早くスライドガラスに塗抹し、直ちに固定を行って下さい。



2. 嚢胞性腫瘍の穿刺

(標本作製困難な場合は検体を容器に採取してご提出下さい。)

吸引穿刺等で得られた液状検体を試験管に移し(10~15mL、それ以下の場合は全量)1000~2000rpm、5分間遠沈後、バフィーコート層から引きガラス法によって標本を作製して下さい。但し、採取量が1mLに満たないごく微量の場合は直接スライドガラスに載せすり合わせ法で標本を作製し、固定して下さい。(固定法は上図参照してください)

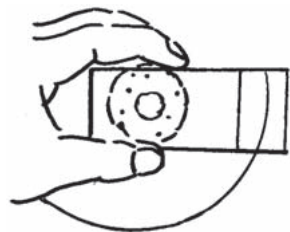


病理

細胞診 標本作製法

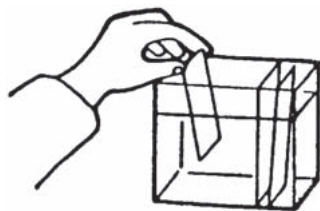
3. 乳汁、乳頭分泌物等の検体 (検体の性格上直ちに標本作製して下さい。)

下図の方法を参考に直接スライドガラスに塗抹して下さい。

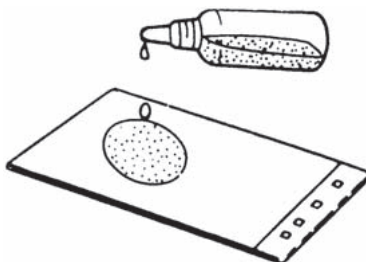


直ちに固定してください。
固定方法は下図参照してください

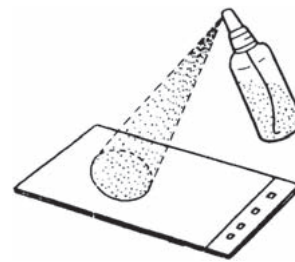
固定法



95%エタノール



ラピッドフィックス



スプレー

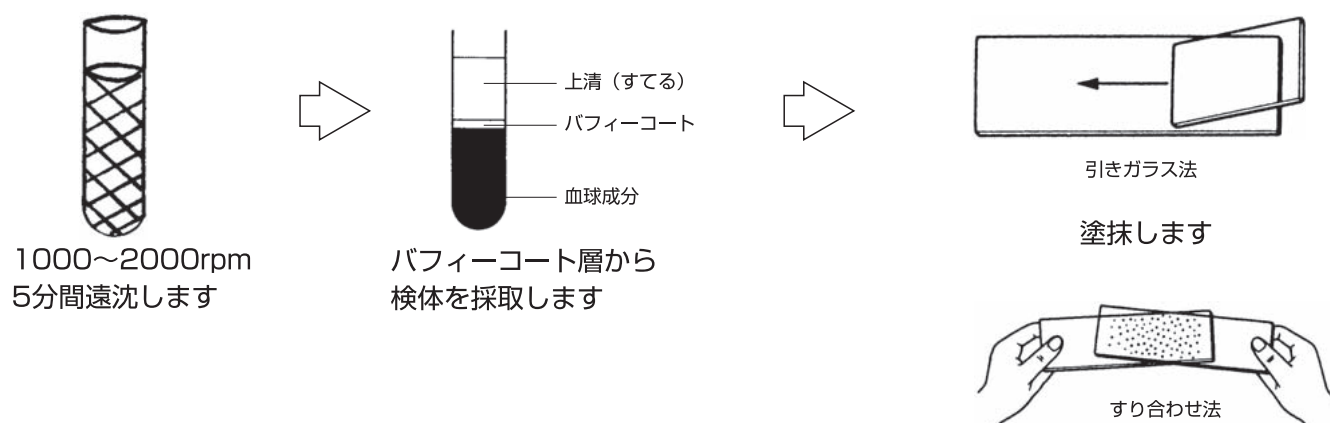
病理

細胞診 標本作製法

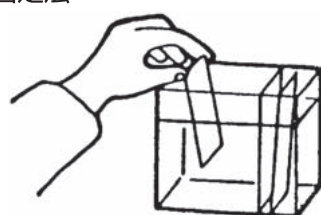
液状検体

1. 胸水、腹水、髄液、関節液、卵巣穿刺液、心嚢液、肝嚢胞液、腹腔洗浄液、ガングリオン内容液、その他液状の検体（標本作製困難な場合は検体を容器に採取してご提出下さい。）

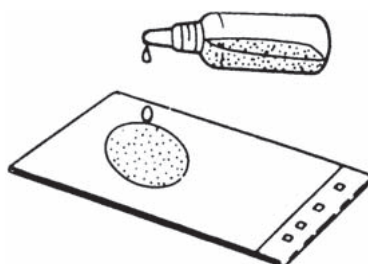
胸水、腹水等は穿刺前に2、3回ベット上で体位変換を行い採取して下さい。採取した穿刺液は試験管に採り（10～15mL、それ以下の場合は全量）、1000～2000rpm、5分間遠沈後、バフィーコート層から引きガラス法によって2枚の塗抹標本を作製し、1枚を湿固定、1枚を乾燥固定に当てて下さい。尚、粘稠度の高い検体はすり合わせ法等で作製して下さい。採取量が1mL以下のごく微量の場合は、直接スライドガラスに採り、引きガラス法またはすり合わせ法で標本作製して下さい。



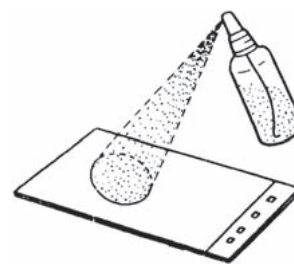
固定法



95%エタノール



ラピッドフィックス



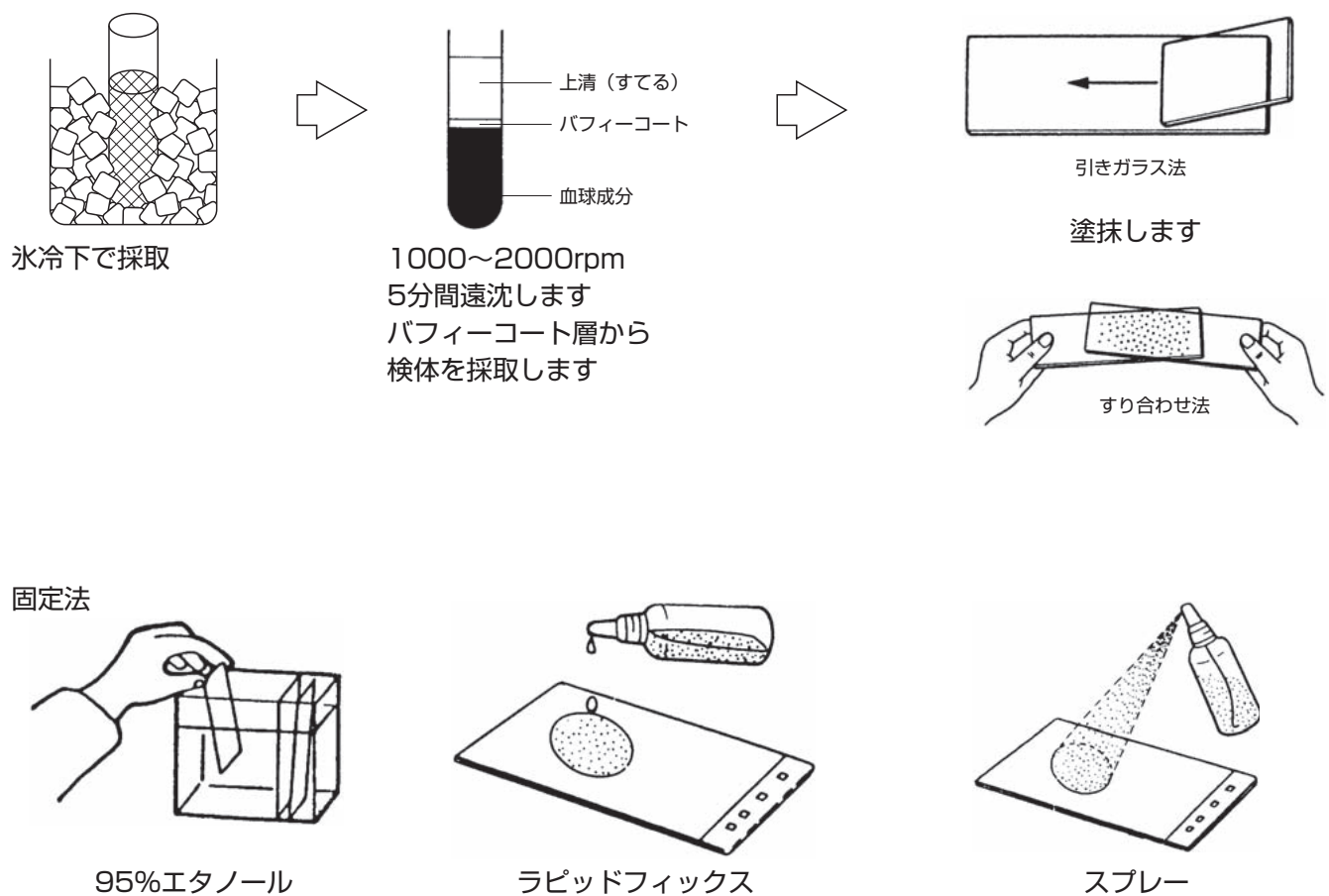
スプレー

病理

細胞診 標本作製法

2. 胆汁、膵液等の細胞の変性し易い検体
(検体の性格上直ちに標本作製して下さい。)

胆汁、膵液は酵素の影響で細胞変性を起こし易く、氷冷下で採取後直ちに標本作製して下さい。(固定方法は下図参照してください)



病理

細胞診 標本作製法

呼吸器系検体

1. 喀痰

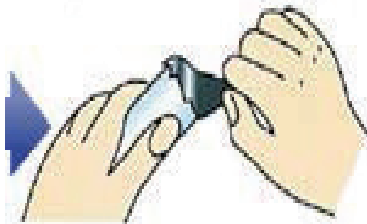
（標本作製困難な場合は検体を容器に採取してご提出下さい。）

採取方法は下図をご参照下さい。

1 蓋を開ける



2 シールをはがして捨てる （蓋の裏側に薬剤が塗布されています）

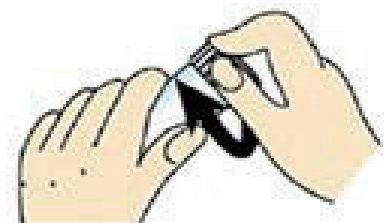


3 痰を出す



シールはきれいに全部はがして捨ててください。
破片が残っていると液がもれることがあります。

4 蓋をしっかりと閉める



液もれに注意してください。

5 図のように容器をもって強く振ってください



容器を強く振盪し、痰を完全に溶かす。
（通常約50回位）正確な検査のために
痰を完全に溶かすことは特に重要です。

6 3・4・5を 3日間繰り返してください。 特に 2と3が重要です。

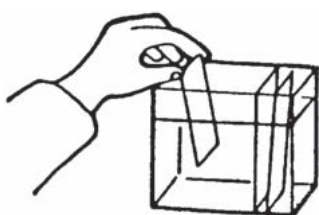
標本の作製方法

喀痰を小豆大の分量程スライドガラスに採り、もう1枚のスライドガラスを使って、すり合わせ法で塗抹を行って下さい。

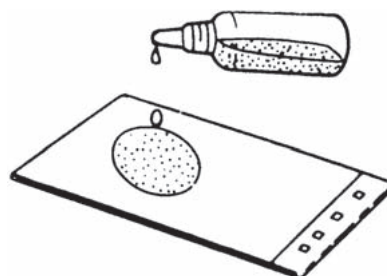


固定法（湿潤法）

塗抹後直ちに95%エタノールに30～90分浸漬し、その後コーティング固定剤（ラピッドフィックス等）をスライドガラス全体に滴下して下さい。



95%エタノール



ラピッドフィックス

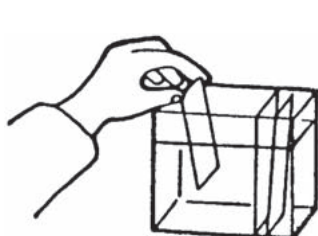
病理

細胞診 標本作製法

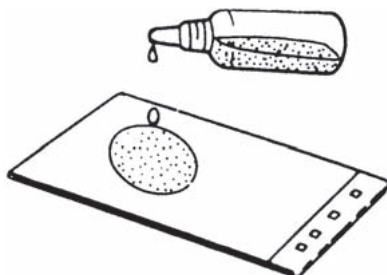
2.気管支擦過、気管支穿刺吸引検体

(検体の性格上直ちに標本作製して下さい。)

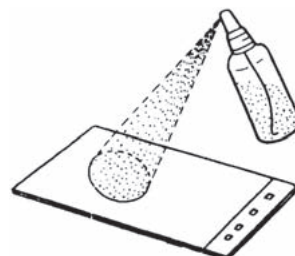
採取後すばやくスライドガラスに塗抹後直ちに固定を行って下さい。



95%エタノール



ラピッドフィックス



スプレー

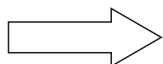
3.気管支洗浄液

(標本作製困難な場合は検体を容器に採取してご提出下さい。)

検体を試験管に分注(5~10mL)後、1000~2000rpm,5分間遠沈後、バフィーコート層から引きガラス法又は、すり合わせ法によって塗抹を行って下さい。



分注



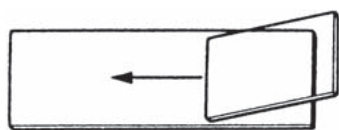
1000~2000rpm
5分間遠沈します



遠沈後

上清(すてる)
バフィーコート
血球成分

バフィーコート層から検体を採取して塗抹します。

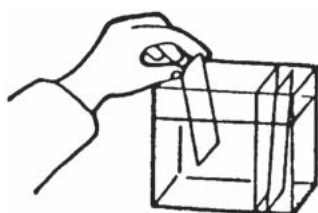


引きガラス法

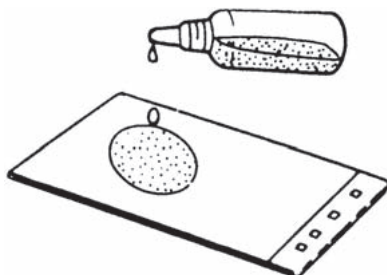


すり合わせ法

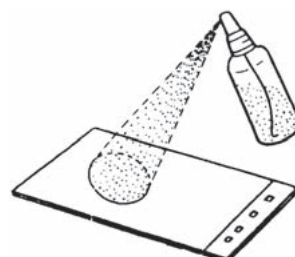
固定法は下図のいずれかで行ってください。



95%エタノール



ラピッドフィックス



スプレー

病理

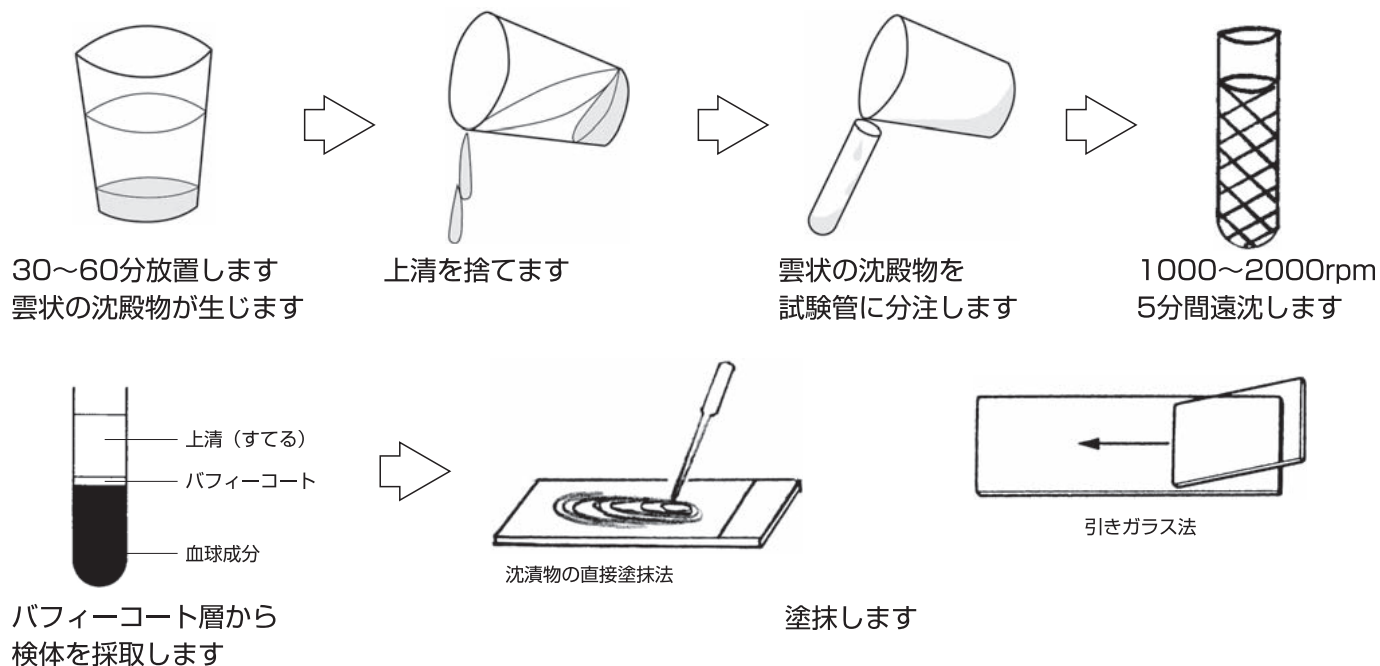
細胞診 標本作製法

泌尿器系検体

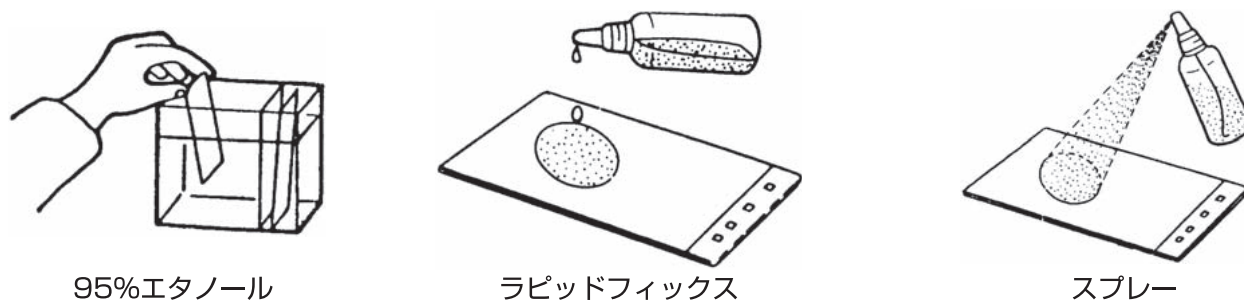
(標本作製困難な場合は検体を容器に採取してご提出下さい。
蓄尿された検体は細菌の繁殖や細胞変性が強く不適です。)

1.自然尿、カテーテル尿

検尿コップ等で採取された検体を下図の方法を参考にして標本作製、固定を行って下さい。

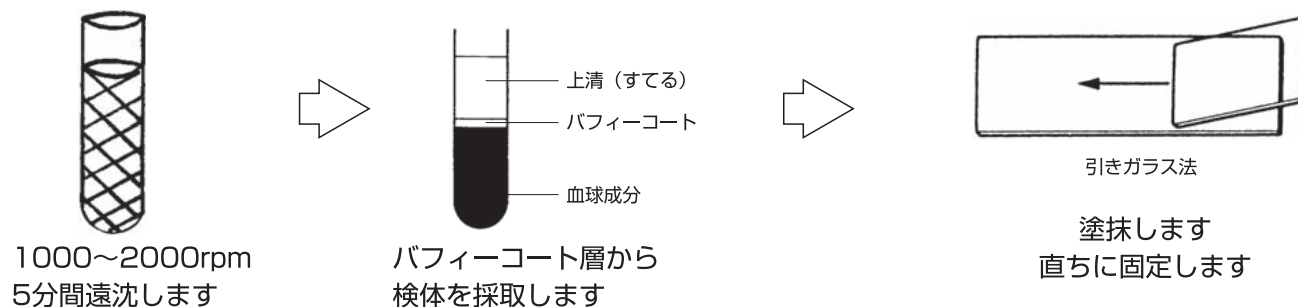


固定法は下図のいずれかで行ってください。



2.陰嚢穿刺液、腎嚢胞穿刺液、精液

吸引穿刺等で得られた液状検体を試験管に移し(10～15mL、それ以下の場合は全量) 1000～2000rpm、5分間遠沈後、バフィーコート層から引きガラス法によって標本作製して下さい。固定方法は上記と同一です。



病理

細胞診 標本作製法

婦人科系検体

(検体の性格上直ちに標本作製して下さい。)

綿棒・綿球等を輸送培地あるいは試験管等で提出されても標本作製困難となる場合があります。)

検体の採取と塗抹



上図の方法を参考にして細胞を採取してください。

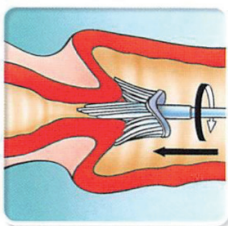
ムラなく迅速に塗抹後、素早く95%エタノール、もしくはコーティング固定材（ラピッドフィックス、スプレー等）で固定してください。



LBC(液状化検体細胞診)：子宮頸部細胞診採取法

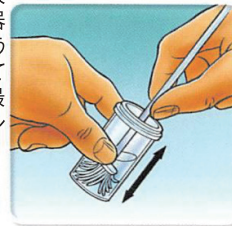
①採取する

ブルーム型ブラシで子宮頸部から十分に細胞を採取します。子宮頸管内にブラシの中央部を挿入します。周りの短いブラシ部分が、子宮頸部に接するところまで挿入してください。ブラシをそっと押し付け、右に5回転させて下さい。採取後はすぐにPreservCyt液バイアルに入れて下さい。



②すぐ

ブラシをPreservCyt液バイアルに入れて、容器の底で毛先が広げられるように素早く10回押し付けて下さい。バイアル内で最後に強くかき回し、ブラシを廃棄します。



③蓋を閉める

蓋の黒いラインがバイアルの黒いラインを超えるように、バイアルの蓋をしっかりと閉めます。

